

# 尚家文化財 国宝として後世へ

## 7月より那覇市歴史博物館で順次公開



**美御前御揃**—みおんまえおそろい—  
中央に金銀器、右側に漆器の御籠飯を左側にはビープ  
で飾られた錫瓶をそれぞれ漆器の足付盆にのせた、儀式  
用の三御飾り。ヌーメークスリーピーとも称する。



緋色地絞り文花織芭蕉衣裳  
—ひいろじますがたひしつなぎもんはなおりばしよういしょう—  
—あかいろじますがたひしつなぎもんはなおりばしよういしょう—



**唐冠服図帳**  
—とうかんぶくずちょう—  
縦24.3センチ 横21.3センチ 11丁  
乾隆30年(1765)  
首里王府高官の冠、官服、補子等を描いた図帳。



**丙寅冠船之時上様御装束考帳**  
一とらのかんせんのときうえさまおにようぞくこうちよう一  
縦24.3センチ 横20.0センチ 25丁 同治5年(1866)  
同治5年(丙寅の年)の冊封使渡来時における國  
王の装束について記したもの。諭祭や冊封など公式  
行事の際、その時々の国王の装束を細かに規定した  
貴重な資料である。



**黄色地鳳凰蝙蝠宝尽青海立浪文様紅型絹袷衣裳**  
—きいろじほうおうこうもりたからづくせいかいたつなみもんようびんが  
たきぬあわせいしょう—  
身丈130.5センチ 術69.5センチ 袖丈83.5センチ 鎖大模様  
文様を、肩、背、裾の三部分に大きく区切り、鳳凰や海水江芽文、宝珠をはじめ蝙蝠や瑞雲などの中国のおめでたい文様で織られた衣裳。王家だけに許された格式の高いデザインである。



金装宝剑匣 号 千代金丸



**御葬具図帳**  
—おそうぐばちよう—  
縦28.0センチ 横19.9センチ 49丁  
王家の葬儀の際の諸道具や祭壇などの仕様、王陵での人・物の配置などを描いた図帳。明治34年(1901)8月19日に死去した尚泰王の葬儀に関する資料の一つである。



**浦添御普請絵図帳** 一もうらそえごふしんえずちょう一  
42.4センチ 横19.4センチ 139丁 道光26年(1846)  
「百浦添」、つまり首里城正殿の普請(造営)の際の建築図面。正殿の各部について多数の絵図が収められ、柱の塗り、寸法、加飾の文様、色などが細かく記されている。

このたび、本市が所蔵する尚家継承文化遺産の重要な文化財「琉球王尚家伝来品」85点及び「附(つけたり) 王装束及(しようぞくおよび)衣裳関係文書」に、未指定の「琉球国王尚家関係文書」1-154点が追加され、計1-251点が「琉球国王尚家関係資料」として国宝に指定されることになりました。国宝指定は、沖縄では戦後初めての指定となり、本市の特別名勝の識名園はじめ、2000年に世界遺産に登録された首里城跡(あと)や玉陵(タマウドゥン)、園比屋武御嶽(ソノヒヤンウタキ)などとともに、琉球王国の歴史と文化が特に伸ばす価値の高い文化財として評価されたということであり、この貴重な文化遺産をしっかりと守り次世代に継承する責務を負っている市では、改めてその責任の重さをかみ締めているところです。

ご承知の通り琉球王国は、15世紀初頭に第一尚氏の尚巴志により初めて統一王朝となり、交易国家として発展を遂げます。15世紀後半、尚円により樹立された第二尚氏王朝は、明治の琉球処分で王国が崩壊するまでの、およそ400年間続きます。琉球王国は、中国や日本、朝鮮さらには東南アジア諸国との政治や交易などを通じて、独自の優れた琉球文化を育みました。しかし、今次大戦では多くの人命とともに王国の文化財も消失しました。幸い、東京の尚家邸には、王国の美術工芸品や文書類が戦禍を免れ遺されました。

ご承知の通り琉球王国は、15世紀初頭に第一尚氏の尚巴志により初めて統一王朝となり、交易国家として発展を遂げます。15世紀後半 尚円により樹立された第二尚氏王朝は、明治の琉球処分で王国が崩壊するまでの、およそ400年間続きます。琉球王国は、中国や日本、朝鮮さらには東南アジア諸国との政治や交易などを通して、独自の優れた琉球文化を育みました。

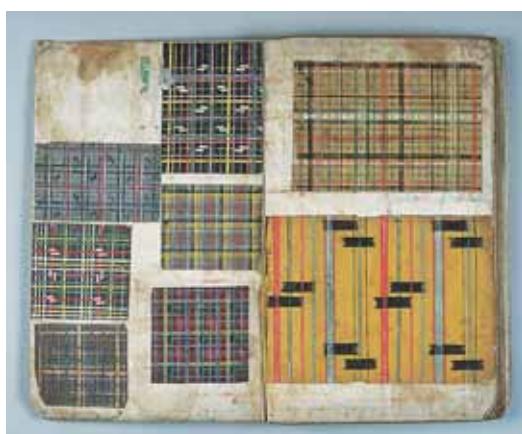
しかし、今次大戦では多くの人命とともに王国の文化財も消失しました。幸い、東京の尚家邸には、王国の美術工芸品や文書類が戦禍を免れ遺されました。

これら貴重な王家の伝来品は、第二尚氏の尚家第22代当主の故・尚裕(ひろし)氏が、戦前、戦後の長期にわたって私財を投じて守ってこられ、1995年と1996年に本市に無償で贈与していただいたものであります。ここに、改めてお故・尚裕氏及びゆかりの方々に感謝を申し上げます。

那覇市では、これら貴重な文化遺産を今後も保存・修復を行いながら次世代へ継承するとともに、展覧会や刊行物などを通して広く市民・県民の皆様に活用していくいただく所存です。

本年7月8日、パレットくもじ4階に「国宝琉球国王 尚家関係資料」の公開施設として「那覇市歴史博物館」を開館すべく準備を進めているところですが、この度の指定はこの事業に大きな弾みとなりました。

このことにより「那覇市歴史博物館」が、広く市民、県民の皆様に琉球王国の歴史を学んでいただける施設として、さらに権威あるものになることをうれしく思う次第です。



那霸市長 翁長雄志



**赤地龍瑞雲嶮山文様縹珍唐御衣裳** - あかじりゅうずいうんけんざんもんようしゅちんとうおいしよう  
身丈132.2センチ 裄112センチ 袖丈68センチ  
琉球国王の正式な衣裳で、中国からの冊封使の行事や、正月や冬至など王国の重要な儀式に着用した。ウマントウンとも称する。